



● 圖為獲得優勝的八名學生和頒獎嘉賓合影留念。王旭東 攝

【本報訊／記者王旭東報道】2010 年度第八屆“公立杯”大、中學生日語演講比賽於 10 月 17 日在上海市甘泉外國語中學舉行。這次比賽還是和往屆一樣由公立國際交流獎學金財團主辦，上海市甘泉外國語中學協辦，並且還得到了日本文部科學省、日本國駐上海總領館以及上海市普陀區教育局的大力支持。

此次演講比賽的參賽對象為長三角地區學習日語的大、中學生，他們分別來自上海交通大學、上海外國語大學等九所大學以及江浙地區的外國語中學，共計 170 多名參賽選手。有 30 名選手進入到下午的決賽。決賽演講的題目有三個，分別是：《如果我去日本，我最想了解日本的哪個方面》、《如果我和日本人住在一個屋裏，我會怎么做》以及《如果我去日本創業，我該怎么做》，比賽要求選手任選其一，令人感到意外的是，有近一半的參賽選手選擇了《如果我和日本人住在一個屋裏，我會怎么做》這個看上去稍有難度的選題。

經過 2 個多小時的比賽，評委會評出了 8 名優勝選手，他們將在明年 1 月 24 日來日，進行為期一周免費考察活動，進一步加深對日本的印象。

“公立杯”日語演講比賽，已經成功舉辦了七屆。這一屆比賽無論從規模上、參賽人數、選手水平都高於以往，這樣的比賽能激勵有志於推動中日友好的學生們，更好的掌握語言、理解日本文化，發展中日友誼，對於加強中日文化交流，加強“國際理解”的意識，有着十分積極的意義。

上海舉辦學生日語演講賽

<翻譯>

上海で学生日本語スピーチコンテストが開催されました

2010 年度第 8 回「共立杯」大・中学生日本語スピーチコンテストが 10 月 17 日に上海市甘泉外国語中学校で盛大に開催されました。今回のスピーチコンテストは例年と同様に、共立国際交流奨学財団が主催し、日本の文部科学省、日本国駐上海総領事館及び上海市普陀区教育局の支持のもとで、上海市甘泉外国語中学校と協力して開催されました。

今回のスピーチコンテストの対象者は上海週辺地域の日本語を勉強している大・中学生です。上海交通大学、上海外語大学など 9 カ所の大学及び江浙地域の外国語中学校から約 170 名の学生が参加し、30 名の学生は午後の本選会に入選されました。本選会では①「もし私が日本に行ったら是非体験してみたいのは……」、②「もし私が日本人と同じ部屋に住むことになったら……」、③「もし私が日本でビジネスを始めるとしたら……」3つのテーマから 1 つを選択して発表します。意外なのは半分近い学生はちょっと難しそうな「もし私が日本人と同じ部屋に住むことになったら……」を選択したことです。

2 時間ぐらいの本選会を経て、8 名入賞者が選ばれました。入賞者達は来年 1 月 24 日に来日した、1 週間の無料体験旅行を通じて日本への理解を深める予定です。

「共立杯」日本語スピーチコンテストは今まで 7 回成功に開催されました。今回スピーチコンテストの規模、参加人数、学生のレベルなどすべてにおいて例年を超えました。このようなスピーチコンテストは中日友好を志している学生がもっと日本語を身につけ、文化を理解することを促進できる大会で、日中文化交流を深め、国際理解の意識を高めることにおいて積極的な意義があります。